

香取市総合計画審議会（第3回）会議概要

- 開催日 平成24年9月28日(月) 午後1時30分から4時30分
- 会場 香取市役所 4階 庁議室
- 出欠 出席：14人 柏木委員、城之内委員、大槻委員、亀谷委員(代理)
伊藤委員、根本委員、鈴木委員、平塚委員、諏訪委員、
中村委員(代理)、石田委員、安藤委員、長谷川委員
加藤委員
欠席：5人 堀井委員、浅野委員、高岡委員、尾形委員
小倉委員(会長退任)

■ 会議概要

1 開会

企画政策課長の司会進行により開会

2 会長挨拶

柏木会長より挨拶

3 議事

(1) 香取市総合計画 後期基本計画(案)について
(各委員からの意見等)

- げんき創造プロジェクトで、「安心して産み、育てることができるよう、子育ての支援の充実に取り組みます」と書いてあるが、産婦人科がなく、安心して産めないのではないか。地域医療の充実のところに、産科の確保を取り組みますと書いてあるが、実際に確保はできるものなのか。
- 教育のところで、地域に根ざした教育というのがあるが、佐原のお祭りの手踊りを、子供のうちから、本物の指導者でしっかりとした踊りを教えていただけるような仕組みがあれば、まち全体の踊りの文化が上ると思う。
生涯教育の関連で、佐倉市では、市民カレッジという、市民が自分でお金を出して、自分のまちのことを勉強して、まちをよく知ることによって、まちをもっとよくしていこうという活動をしている。そういう何か仕組みが、できたらいいと思います。
- 学校ボランティアを活用し、地域の方が学校に行き、地域に密着した教育をするのが、一番いいと思う。時代とともに変わってくるが、子供たちがやりたいと意欲があれば、

地域の方が指導者として教えに行けば、よくなると思う。

- 今、どれだけの休耕田あり、目標として1年後にはこれだけを埋めますという具体的な数字を表すということは難しいのか。そうすると非常に評価しやすい。
- 耕作放棄地は確かにあるが、意外と植えられない田んぼが多い。植えたくても植えられない場所が結構ある。
認定農業者など必要ですが、まず第一に、香取市で後継者をどう支援して、後継者をつくっていくことはできないのか。
- 土地改良された土地というのは、すばらしく、いろんな問題はあるが、後継者ができれば最高の土地である。地震によって感じたが、食の大切さ、平凡な生活、当たり前の生活を身にしみて感じた。田んぼを100%生かせるように、香取市全体で、元気な若者を育ててもらいたい。
- 60町歩の畑を、耕作放棄地を無償で整地にして直し、そこで野菜をつくり、野菜を収穫する人は、老人の方を使っているというのをテレビでやっていた。若い人だけでなく、高齢化進むので、年配の方が野菜をとったり、束ねたりの労働をやっているところがある。
そうすると、年寄りも元気になるし、早朝の収穫ということで評判もよくて売れている。そういうのも参考に高齢者を使う方策も考えなくては思う。
- 商業の後継者も農業と同じである。後継者問題で、いろんなコンサルが来て説明するが、つまるところ後継に値しない。だから後継者がいない。
若い人たちが考える収入や労働の兼ね合いが不十分。それが改善できれば、後継者もできる。
- 農業は、外部から新規就農が難しい。商業の場合は、外から入れると思うが、農業の場合は、農地が流動化しないから、新規就農ができない。だから、利用権設定のところに、プラス新規就農者のための利用権設定というのが必要である。
- 農業委員会の方に要望したいのは、利用権の設定を、よそ者にも窓を開くべきである。特に、農事組合法人みたいなのをつくり、法人化してやるようなことをしないと先細りになる。
利用権設定も、同じ集落の中では、多分進んでいると思う。だから、若い起業家のような外部から来た人、集落外から来た人に開放していかないと先細りだと思う。
- 就業の分析を見てて気がついたが、香取市に従業している方で、よその市町村から来ている人で、稲敷から香取に来る方が482人、逆に稲敷市に香取市民が出ているのが840人です。アピタ影響だと思うので、やはり大規模店舗は必要だという気がする

成田、神栖、鹿嶋に、半分が行っている。また、成田、鹿島、神栖に対しての依存というのは、非常に大きいというのが印象である。

- 東北地方の過疎地との違いだと思うが、香取市は数字的にはすごく悪いが、困っていない。だから、この地域の住民の意識の低く、徹底的に企業誘致をしようというところまでいかない。そのハングリー精神が欠けていると思う。人口、就労先、医療、買い物など、ちょっと足運べば、成田、旭、鹿嶋があるという状況のためだと思う。
- 神栖について、神栖は、医療費がタダで、保健、保育所、そういう子供に、育てるのに適しているらしく、神栖に出て行ってしまう傾向がある。
- 佐原の歴史を見ると、昔は、佐原の中で約1,000軒のお店があり、1,000軒の店があると、その地域は、それで自給自足できた。よそへ買い物に行かなくても間に合った。それで、安定してしまった。
今は、大型店だけでなく、コンビニが香取市の商業に大きな影響を与えていると思う。
- 就労の分析で、香取市は3万9,000の労働者がいるが、香取市で働いている人は市外からの人も含め3万2,000人しかいない。香取市の仕事場が3万2,000しかない。割り算すると82.3%である。旭、匝瑳どうかみると、旭、匝瑳とも90%ぐらいで、10ポイント低い。成田は別格で、154%になるが、いかに香取地域に仕事がないかがわかる。
- 仕事場の確保など、それだけを一生懸命取り組む部署、団体など、真剣に考え、どうやったらうまくいくかを考える仕組みを考えないと、そのままだと思う。
- 市民協働、みんなでやりましょうと言っても、音頭をとり、企画を立ててくれるのは、私は行政だと思う。中心になる人がいなくては、何やってもいいかわからないというのが実情である。みんなで企画するのはできない。
- みんなが、行政が「こうやってやりなさいよ！」と言って、「はい、そうですか」って、やらなくなっていると思う。
- 市民協働という理念自体は素晴らしいことだと思うが、市民の側も、行政の側も、どっちも譲り合ってしまう、お互い丸投げし合って、何も決まらないというのが、一番よくないと思う。行政がある程度こころまではできるというのを明確に示して、その先は、市民のほうでやってくださいなど、線引きを明確にしたほうがいいと思う。
- 住民自治協議会の活動をやっているが、最初は、協議会は市役所がつくらないとできないとか言っていたが、始まると、自分たちでやるしかないかということで、案外やる気で、まとまってきている。
だから、市は、お膳立てして、ある程度で引いて、どうしてもできないときに、ア

ドバイスぐらいのほうがいい。

- 誘致したい企業に、この計画を見せるつもりで作文してほしいという意見を述べたが、香取市でどんなインセンティブがあるのかということをもっと強調すべき。悲観するような話を書く必要はない。魅力ある作文にしていきたい。
そもそもソニー跡地は、また公募を始めるので、この計画ができたときに、時代おくれのピント外れの作文ではいけない。
- 全体に言えるが、具体的な事業名を、ただ1行の言葉で言い切って、何の説明もない。教育委員会関係は括弧書きで、その中身を説明している部分もあるが、行政の内部資料としてではなく、市民、関係者に見てもらいたいものであるなら、その具体的な事業が内容がわからないようなものでは、親切でないという印象が全体にある。
- 企業誘致の目標が、5年間で3件というのは随分低い。
なぜこんなに遠慮っぽくまとめたのか。そんなに難しい場所なのか。
- インターネットには、企業誘致したい土地の一覧が載っている。かなり空いている。それを全部とは言わないが、埋めるくらいの意気込みは欲しい。結果論は別としても、姿勢の問題。
- 香取市のように財政力のないところは、民間の用地を仲介するというのは非常に大事な行政である。小見川工業団地だって、空いているところはあるし、小見川西中の跡地もある。
市民も知らないので、市民にも企業誘致できる土地があることを知らせる必要がある。もっと切実感を持ってやってもらいたい。
- 香取市全体としての観光を考えたときに、グリーンツーリズムは非常に大きな位置を占めるが、農業のほうに入っているので、観光の部分に何も入ってこないというのはおかしいと思う。
もっと成長分野を見定めて、観光戦略をやらないとうまくない。
- 栗源にかりんの湯というのがあって、そこに12ヘクタールの観光農園を建設中で、貸し農園もできている。ああいうものをもっと活用するような、まさしくグリーンツーリズムでは必要だと思う。
- 里山観光について、山林へ小学生、中学生を呼んで、1泊研修なんかをさせ、自然を親しみながら山林の町を見せるという観光があってもいい。小学生は、よくキャンプへ行って、キャンプファイヤーかなんかをした。子供たちは、みな喜んでいた。
市がそれをやるわけにいかないだろうから、民間が企画して、国民宿舎のようなものをつくり、香取市へ来て、山を経験すればなじみができると思う。

- 観光と農業ということでは、栗源の道の駅で浦安市で募集した、芋掘りと落花生狩り、ザリガニ釣りなどと、佐原の町並み案内ということで、バス2台、毎日80名ずつ、3日か4日来ていた。

農業と観光は、今、非常に関心が高いので、農業に載っているが、もちろん観光にも入れてほしい。

- 香取に来れば歴史もわかり、農業も楽しめて、自然も楽しめるという形で、半日ぐらいで、皆さん喜んで帰ってくれた。浦安市で、そうやってくれるのだったら、違う市にも、あっちこちに広がる可能性はあると思う。
- 今度、友好都市として喜多方市がお見えになる。市長にも友好都市は、1つや2つじゃなく、いっぱいあったらどうかと話した。たくさん交流していれば、香取市がにぎわう。喜多方は、もともと小見川と密接な関係があって、そういう交流が深まると、お互いが交流人口が増えて、お互いいいと思う。20ぐらいあってもいい。
- 基本構想の中に指標があり、通年型の観光入込み客数というのがある。
通年型観光入込み客数、これが50万とあるが、道の駅との関連、100万人との数字、どこが違うのか。客数の定義がどうなっているのか。わかりやすく示す必要がある。
- クリーンエネルギーでどんどんつくり、ソーラーもそうだが、農地も使い、たくさん進めて、大規模にやっていったら、市外にもPRできて、環境の町というようなイメージ戦略も1つ重要かと思う。
- 本当の未利用地ならばいいが、ソーラーパネルだけ張りつめるのはもったいない使い方である。だから、屋上や下を使っている施設で上を利用するというのが最も理想的な使い方、まっ平らな土地をソフトバンクみたいに、30ヘクタールも40ヘクタールもソーラーパネルで埋るのは、非常にもったいない使い方だと私は思う。
- 農業関係で、もみ殻がるが、あれが結局田んぼで燃やされている。もみ殻をどうにか、利用、活用はできないかいつも感じている。もったいない。
- 市民にリサイクル率が低いということを認識させるべきだと思う。リサイクル率の目標があるが、高い目標だが大丈夫なのか。やる気があればどんどんできるので、ぜひ達成してほしい。
- 過剰包装について、消費者の人たちが商工会議所へ過剰包装を廃止してほしいと要望にきた。この原因をつくっているのは消費者のあなた方だと言った。業者は、手間とお金がかかって、やりたくないが、消費者の要望で、そういう時代になってしまった。だから廃棄物、ごみがふえるのも自然である。

- 消防団員は、20才から50才である。それが今後かなり減る。そうすると、今でも消防団員を探すのが大変なところがあるので、果たしてこれでいいのかどうかということ、消防団の中でも論議しなくてはならない。
消防団員が減るその穴埋めとして、OBとかにやってもらえばいい。
- 避難のマニュアルがあるが、佐原消防とかが、一番低く水害の被害を受ける場所である。避難場所が本当に安心なのかということ、もう一度見直してほしい。
- 学校が避難所になった場合に、日中、教職員がどう対応しているか全くわかってないと思う。日中の災害で、住民が避難したときに、教職員がボーとしているのでは困るので、マニュアルをつくったほうがいいと思う。
- 5年間で消費者センターを設置しようということになっているが、確かに苦情が大分増えていることは問題である。ぜひ消費者センターが欲しい。
- 0～2才児は、乳児の場合は離乳食や専門のトイレ、沐浴室、シャワーなどをつくらなくてはならないし、専門の知識を持っていないとできないので、幼稚園を保育園にするのは施設・設備の関係で大変だと思う。
- 小見川総合病院で、診療を受けるが、確かに薬など今はかなりスピードアップした。小見川総合病院は、建物は古いが、しっかりやっていると。婦人科がないのがどうかという感じする。
- お年寄りが、同じ治療で病院を転々として医療費が上がってしまう。中には、薬をいっぱいもらったほうが、自分が健康でいられるという意識の人がいるので、そういうのを指導してもらったほうがいい。
- 薬は、ジェネリックにすれば、大体3分の1ぐらいに医療費が下がる。
- ジェネリック医薬品について、純正と比べて、副作用が出やすいという報告もあるみたいだがどうか。薬の成分が、ジェネリックと純正品で、ちょっと違う場合があるようである。その点で、何か出やすいのではという報告があるようである。
- 電線地中化は、市街地整備の中に、重点事業として記載はされているが、できれば、観光にも再掲して、現状の中にも、市街地整備の課題として、重点地区の価値を高めるためには、最優先で取り組むべき話だと思う。
三菱館のところの景観は、電線がなくなると物すごく映えると思う。重伝建地区でも最重要課題で取り組むべき。
- 北海道の江差というところへ視察に行った。江差は、町並みを全部改装し、大正時代

の建物ができていて、道路が広く、歩道が3.5mずつあり、電線がない。すばらしい町並みであったが、人が全然いなかった。

観光は、いろんなものができたからいいということではない。都市計画の、大学の先生に聞いた話では、佐原の町も、町中に歩道や自転車道をつくるべきだっていう意見もあるが、古い町並みを大事にしているところは、道路を拡幅したら失敗すると言われた。

- 川越が重伝建地区で、電柱地中化進んでいて、非常にきれいである。近年では成田の参道が電線がなくなってきれいになった。

県の土木事務所は電線地中化の認識を持っていない。だからもっと市のほうから働きかけをして、知事の要望に上げたほうがいい。

- 成田小見川鹿島港線のあたりの土地利用のあたりに、圏央道の話がちょっと出てくるだけだが、国道356号に神崎インターができることの影響とかを作文したほうがいい。

- 山田の生きがい交流館について、民間の温泉があるので、タンクで持っていくことも可能なので、そういうものも取り入れてはということで入れた。

- 計画が予算に縛られるとろくな計画ができない。長期計画は、総合計画があり、基本構想があって、5年の中期計画があって、毎年の実施計画がある。計画は総花的がいいかどうかは別として、景気よく議論していかないと企画にならない。予算案に縛られて実施するので、実施計画の段階で予算に拘束されればいけないので、計画自体が予算に絞られて縮小してしまっはいけない。

- 計画全体に対して、PRが足りないと思う。今まで、農業や商業について、こういった施策をしているというのが出てきたが、それがみんなに知られていない。若い人は、新聞も読む人は少ないし、テレビもニュースを見る人も少ない。インターネットは見るので、インターネット上に情報がないと、その情報はないものとして扱われるケースもある。市のホームページを見ると、欲しい情報にすぐアクセスできない状況が大半だと思う。

情報までのアクセスと市外に向けてのPR、ツイッター、フェイスブック、そういったものを活用すると、すぐ広まると思う。

■答申(案)の取り纏め

第1回目から今回までの会議で、委員より出された意見等を踏まえ、審議会としての、答申(案)を会長と事務局で調整して、作成し、その後、作成した答申(案)を委員の皆さんに送付し意見をもらい、さらに修正を加え、次回会議で協議を行うこととした。